



じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

ぼくは原爆のことについて学んだことがたくさんあります。
 まわりの2万人も亡くなってしまったことに對してびっくり
 したり、かわいそうだと思いました。また2万人が一瞬間で
 なくなったことも聞いて原爆は一瞬間でたくさんの人を
 殺せる物なんだと思いました。ほかにも軍の人は負傷
 者を救助したり死体をかたづけたことも知りました。
 「7000歳の少年」という本を聞いて心の中に残ったのは
 顔の半分がやけどをした人の肉が見えていたこと、爆心地
 では人が一瞬間で消え去ったこと、軍の人は死体をかた
 づけたことです。顔半分がやけどをしていたり肉が見えた
 人がいたと聞いてそうして亡くなってしまふ人にかわいそうか
 と思ったり絶対に見たくないと思いました。歴史の中で
 は広島に原爆が落ちてたくさんの人が亡くなったり、後遺
 症に苦しむ人がいると書かれているけどそれは一部分で、
 やけどをした死して苦しみながら死んだ人がいたり、うさ
 が口をこらえて死体をかたづけた人がいるんだと感じ
 ました。そして原爆を使つてはいけないと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業は、しても分かりやすいか、なです。

体全体で表現してください、たり、声を変えてどんな感じだったのかを表現してください、たり、赤い光をモニターに向けてどこのことを話したりしているのかを示したり、体で表現してください、た事などの、なぜそんな、たかの説明もしてください、ても分かりやすいか、なです。

資料一つ一つに詳しく多くのことを説明してください、一つ一つの資料がそれぞれ内容の濃い物となりました。

一番印象に残っているのは原子爆弾の音で、た時です。いきなり大きい音いび、くりました。が、実際はもっと大きい音だと思っているので、耳かなくたりもです。



じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

自分は原爆のことを話してくれて感じたこと、思ったことが2つあります。

1つ目は、原爆の事件でこれだけの人々が被害を受けて、このことで広島県民たちはどれだけ苦労したかが分かります。

24万人ほど被害を受け、14万人の方がたうがせくなら推測、どれだけ人が苦し^ま痛^まさがまんじたり、悲人だ人が多数いたということが分かりました。

2つ目は、原子爆弾がどれほどものだったのかが知れたことです。

まず、最初、原子爆弾がものすごい物だったこと、そして死な。

それは、幅200mあること、原爆の周りにも、太陽を超える7000℃と原爆の中心は100万度、重さ4tが600mの高さから落ちてくる。考えると原子爆弾がどれほどすごいことが分かります。

自分はこの話を聞いて、原子爆弾がどれほどの物だったか、どれほどの被害をもたらしたのか、どれほどの被害がまんじたりしたということが、すごい分かりました。前まで原爆のことはまったく知らなかったからこの話を聞いてとても勉強になりました。



名前は表面に記入してください

原爆先生じゅこうの特別授業を受講して

表

私は、原爆のおそろしさがよく分かりました。

原爆は太陽の表面温度の6000℃よりも高い温度ということや温度だけでなく、衝撃波もすごく音速よりも速いということにおどろきました。そして、その原爆の衝撃を受けなくても放射線などをあびてしまい、原爆しょうじょう病気になる、という話を聞き、今の世界はとても平和だということを実感しました。

そして、原爆の死亡率が40% つまり、5人2人広島市の人か原爆により亡くなる、ということや、京都・新潟・横浜が原爆投下都市の候補になっていたことを初めて知り、空襲などの争いはもう、これからないようになしてほしいと思いました。

相手側りも日本側りも原爆を落とさず、いい気持ちにはならないでほしいし、なりたくないとも思いました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

私は、原爆先生の特別授業を受講して、思った事が3つあります。

1つ目は、太陽よりも熱いということです。太陽は6000℃で日が当たるだけでも熱いのに、太陽より1000℃も熱い7000℃というのにびっくりしました。原子爆弾といってもそんなに熱くなくて1000℃もいかないかなと思っていたので、よりびっくりしました。

2つ目は、重さと大きさについてです。重さ約4t、大きさ3.12mなのに、爆発すると決めた所に打つので不思議だなと思いました。この重さと大きさなら、下に落ちてしまうと思ったので、真上くらいから打つと思ったのですが、打つ場所と約4kmもはなれていたのが不思議に思いました。

3つ目は、今、私はふつうに日常を送っているけれど、この時代には、毎日、おびえながら生きている人もいるんだなと思った事です。1回目の爆発では、40%の人々が亡くなってしまっ、また「生きてるという人も全身大やけどで、人間ではない状態にまでなっていました。2回目は、11時頃に来ると予想されたが、来たのは、長崎で、広島は来ませんでした。ですが、来ると思って、びくびくする所を想像すると、すごくこわくてたまりませんでした。

このように私たちはふつうに生活していますが、この日常があたり前ではないという事に気がついたので、私ができる事に感謝したいと思います。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

原爆によって亡くなった人が14万人もいて、一瞬で亡くなった人が2万人もいたことから、原爆は一瞬にして多くのものをうばうのたさ分かりました。原爆によって、今も苦しんでいる人がたくさんいます。原爆が落とされ、人々や町の様子がどんなに悲惨だ、たかというこは原爆を受けた被害者しか分かりませんが、悲惨だったことを語り継いでいくことで、人々に、原爆をなくそうということに共感を与えることができます。自分たちが世の中をつくっていくから、今日の原爆先生の話を少しでもいいから、伝えていき、核兵器が無くなり平和な世の中をつくりたいと思いました。

原爆が来た時の音を再現してもらった時、自分たちは原爆が落ちたことを知っていたながらも、すごく怖くなってしまったけれど、原爆が広島に落ちる日は、原爆が落ちると思ってもいなく、原爆が落ちてしまった時の精神的なダメージは大きかったと思うけれど、それでも町の消火活動力をして、原爆で被害を受けた人々を助けたり、少しでも生き残っている人を助けようとする心がすごいと思いました。原爆の被害は熱・衝撃・放射線ですが、どれか一つでも来たら、苦しんでしまうのに、三つが一気に来て、1945年で、すごく苦しめる核兵器ができていますから、2020年の技術だとさらに苦しめてしまう核兵器ができてしまうため、平和を維持することの大切さを改めて感じました。



原爆先生の特別授業を^{じゅこう}受講して

表

名前は裏面に記入してください

私は、1945年に、広島や長崎に原子爆弾が落とされたことを初めて知りました。

しかも、太平洋戦争の時でした。すごい大変な、日時期に、原子爆弾を落とされて、とても、こわかった、大変だったと思います。

これに比べて、今はすごく平和です。先生の話を聞いて、改めて、思いました。

上空600mの所から、3.12m、約47のリトルボーイが、空から、落とされたんですもの。

しかも、火暴発する時には、約7000℃〜100万と地面は3000℃、体の中の水分が全部なくなり炭になっちゃってしまうように、熱いんです。

とても、こわいと思います。そして、広島市の

人口35万人から、14万人死者が出ました。その中の2万人は一瞬で亡くなりました。死亡率は

40%、5人に2がなくなるくらいです。すごい残虐です。でも、先生の話を聞いてよかったです。これだけ

広島市の人々は命を落とさないように生きてたか分かります。それからも、命を大切に心がけたいと思いました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生じゅこうの特別授業を受講して

表

原爆先生の授業はかなり心に刺さるものがありました。原子爆弾のきょうかはかなりすごいものでした。原子爆弾の近くにはいた人たちは、一瞬で粉のチリ、チリになって最初から運動おいかないくらいしゅうげき的なことでした。原子爆弾の表面7000℃なんて太陽と同じくらいの温度なので、そんなに熱いのか、と思いがかりに聞いたりしてしまいました。そんなに熱い風などもいるた人間はほぼ生き残れず、川の氷がじわっと溶けていくように水がなくなるなんて想像もできません。衝撃波の速さ440m、音速7340mの水よりも速い爆発です。原子爆弾は被害が大きすぎます。原子爆弾のせい広島市の人口が35万人なのにそのうちの死者が14万人、死亡率40%、人口の半分くらいが原子爆弾で死ぬなくて、被爆者も24万人、自分がその場にもいなくても人にも出来なりました。原子爆弾は二枚過ぎで、そんなものがないほしいです。あらためて、人が死ぬ悲しみや原子爆弾の二枚やうけを今、かなり知りました。二度と原子爆弾は日本に落ちないでほしいです。



原爆先生の特別授業を受講して

じゅこ

表

名前は裏面に記入してください

昔は、せんそつだ。たじきだか、
 20分くらいしているから、
 つかお末たはくたんで人びとが
 たったり、かちがしか来たたりして
 7000のしと、年というので、
 おもった、ので、たじきだか
 のことだ。し、
 たのか、すこい、と、
 い、
 のか、
 い、
 て、
 て、
 の、



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

ほくは、原爆先生の言葉をきいて、戦争の、
おそろしさを改めて実感した。

「トルボーイ」などの空襲で、表面温度が
「7000℃」もあり、太陽の表面温度の
1000℃もあわいとして、おどろいた。

空襲を受けた人々を助けようとしたら、手のかわが
スルスルとむける。そのときいた時には、

鳥はたぎになった。しょうげき波が、毎秒、440m
すすむことにおどろいた。音は、毎秒、330m。

音よりも、しょうげき波の方が速いことに、

おどろいた。元軍川の死体を運こんでいる

時に、肉が「かんぜん」に見えるなどときいた時は、

「もし死体を自分が運こんでいる」と考えると、今すぐ
にでもそこをにげたしたいと思う。

最後のビデオを見た時に、戦争の時の

ことを思い出すだけで、泣いてしまうほど
戦争が、かみだったことが伝わってきた。

展示されている物でも、耳にきくというほど
戦争は、かこくだった。



原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

名前は裏面に記入してください

12/5

広島での原爆についてお話 を聞いて私は今、平和に過ごせているのは幸せだなと実感しました 戦時中はいろんな人が苦しんだのを想像して聞いていたら少しかわいそうだなとも思いました

たくさんの方が出て生きていた人が助けを求めても助けられない大変重大な事が日本でおこっていた事を心の中で重く受け止めました 私は、原爆で生きていた人がいたんだな一と思いましたが生きていた人も苦痛だ。たんだろうなとも思いました。アメリカから4七もの原爆が自分に落ちたらなど想像して聞いていました。

2回も原爆の^かいさよう出ただけでも恐怖なのに人々の死体の運送やしょうきゃくなどの仕事はとてつもなく大変だったんだろうなとも思いました。

きっと今の時代原爆が落ちたら自分には何も出来ないうだらうと深く考えました。

人々のために17才で軍隊に入って班長に指名されて人の前を通る時や仕事でそれからがれきを見て深く人々の事を考えていたのだらうな一とも思いました

きっと原爆で変わった事が多くあります。ありがとうございました



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

名前は裏面に記入してください

私は、原爆先生の特別授業を受けて最初は、原爆の中で焼け死んでしまう人が多いのだと思ってとても悲しいし、生きるために川に飛びこんでも水が蒸発して川ではなくなってしまうと飛びこんだ人も死んでしまうということが悲しいなと思いました。みんなを助けたくも何もできなくなるそれは当たり前だと思います。なぜなら、はたのかわかむけて、ひさんな状態で必死に歩いているからです。原爆にあつた池田義三さんは、軍として必死に人々を助けようとしていたけれどもう人じゃない状態で助けられなかつた、また義三さんは死体を担いで集積場に運び重油をかけて焼却していたのはとてもこわかつたと思います。義三さんはすごい人だなと思いました。今回の原爆先生は、原爆にあつたむすこさんで、むすこさんの話を聞いているだけだとこわくなつたけれどそれ以上に義三さんの動画の方がこわいと思いました。なぜなら、原爆にあつた本人の話で原爆ドームに展示がしてある物はきれいすぎると言っていたのですが、私は展示してある物すらこわいと思つたのもっとこわいのかと思つた。けれども原爆にあつた人だから原爆はもっとおそろしいものだと分かっているのだと思つた。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

私は原爆先生の特別授業を受け、思ったことがたくさんありますが、1つ目に思ったのは、最初の方の話を語っている時に、声で、その場の音などを表現していて、ピカーッと言った時、私はずくびくりしました。でも、その表現した音よりも、原爆が落ちた時の本当の音のほうが、たぶん心にたいていと思ひ、本当に原爆が落ちたら、ずく、こまかおられるほどのすごい音がしたのではないかと思います。2つ目に思ったのは、お話のとやらへんで、へいたさん助け、へいたさん助け、という助けをもとめる声を聞いた、その人は助けあげようとしてを引張たら、皮がはがれて、という所を聞いて、助けあげようとした人も、こらるとはきこおてもしなからただろし、つらかったら思いました。もう一つを引張られた人も、ずく、ずく、つらかったら思いました。3つ目に思ったのは、熱せん、しょうきは、放射線というのを原爆先生が話していて、とれも、おいかい、もと、こいかいと感じたのが、放射線です。なぜかという原爆先生が話していた、ことで、会社がまた開いてなくて、座っていた人が、放射線をあびて、すぐその場にはいなくなってしまう黒い座っていた、あとだけが残っていたというお話があり、その写真を見せられた時、またなにも、なま、黒いものが残っていて、ずく、こら、しんてい、ほとのい、かがあるというお話を聞きました。この原爆の残こさせ、人々、なま、なる、悲しい思いをこの話を通して、ずく、分りました。だからこそ、今の私たちは平和に暮らし、生きていられることが



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

原爆先生の話を聞いて、4土の火暴弾が暑島法島
 に5分は暑い太陽のような暑さから人々が、苦しんで、人々
 間違ったと言っているほど、赤くやけどをして、一部では
 一人一人、消えて、かげなげしか、耳をたたくが、た人その
 ます。苦しんでいる人々の姿を思いうかべると、人々が、
 こらえんして、泣いたり、目かけを求めたり、火暴弾とは、
 人々を平和にする力はなく、戦争の元です。
 原子火暴弾はそれほど、おそろしいと感じています。
 全身が赤く、やけどをして、中身の肉がとがはがれ、
 落ち、その姿を、ほくか、見方が、自分で、手が重た
 かなくなって、豆腐か、ま白になるでしょう。戦争
 は、まだ今も起ころうとしていますか、
 日本は、平和主義を守って、やることか
 ぼくか考えたら、日本かやるべきことかと思ひ
 ます。7000度という、太陽の表面よりも、暑い7000度。
 これだけ、力があつたら、見守りたけに、何万人
 の人達、死亡させられた。ほくたちが、戦争
 は、ぼくか人々で、やがたして、人を戦争で、
 死なせたいために、戦争は、しない。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

広島に原爆が落とされたときの音、その熱さを、きのう知り、知る前は「私は原爆が落ちても、生きることができると思っていたのですが、原爆のこわさを実感しました。

最後の原爆先生のお父さんからのメッセージで、原爆のことを話していると中に、少し泣いていたのがわかりました。それくらいつらい現実だ、たのたと感じました。どんなに月日がながれても、忘れられないことなのだと思いました。

今の原爆ドーム(広島産業奨励館)は原爆にたえぬいたけれど、もとの建物より、とてもくすんでいます。広島は空襲がながたため、原爆が落とされました。広島県にすんでいる人にとっては、大きな音も、光も、熱さも、予想していなかつたことでした。そのため、多くの人になくなり、負傷し、心も体も、傷だらけになっているのが、映像を見なくても言葉だけで、わかりました。いつもと通りの日常をすごしていた日に、5人に2人がせくなってしまうような原爆が落とされ、多くの人になくなり、家族とも、友達ともはくられてしまい、苦しい思いをしていた人にとって、これ以上、被害を増やしたくないと思っていたのだと感じました。だから、これからも、平和な日本を守っていきたいと思いました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

私は、原爆先生の特別授業を受講して、あらためて原爆のこわさを学びました。まず、原子爆弾が落とされたときの音。原爆先生の表現力がすごいなあと思いました。でも、実際はあのような光と音ではないはずです。そのときはもと、体がすくみ、動けなくなってしまうような衝撃だったのだと思います。次に広島に投下された原子爆弾です。

B29の爆撃機が4機もの「リトルボーイ」(原爆)を積んで時速300km以上で飛んできたと聞き、とてもおどろきました。原爆も初めは時速300km以上で広島の上を飛んでいて重力によって徐々にスピードを下げていきました。そして、上空600Mで大きくふくらみました。この大きさが直径200m、温度が内側100万℃、外側7000℃です。先生も言っていた通り、太陽よりも1000℃高いなんて、太陽丸ごと落ちてきたのと同じだと思い、ゾッとしました。そして、原爆にあわれた人達です。原爆によってバラバラになった瓦礫の中に防火用水があり、その中に避難したのたろう人が入っていたと聞き、気の毒に思います。コンクリートでできているので安全だろうと思っただけでしょう。想像するだけで恐ろしい光景だったのだと思います。被爆者数24万人、死者数14万人、いつも過ごしているこの環境が当たり前と思っただけでも想像をこえる恐ろしさが襲うかもしれません。人や自分の命を大切に、今ここに生きていることに感謝して毎日を過ごそうと思いました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

ぼくは、この特別授業を受講して、今では絶対にありえない過去を目にしました。特に、人のはだかズルッとはかれ落ちた炭だけにな、た人の体がそこにはあつたというごとにおどろき、むねが痛みました。多くの人がせくなり、多くの人的人生をうばつた原子爆弾。きつと爆発した時には自分達の想像を絶する光景が広がつたのではないかと思います。原子爆弾の大きさは全長3.12m、重さは約4トン。この中には相当な量の火薬が入つていたことが分かります。これが爆発した時は中心温度100万度、外部7千度、地上3千度の猛暑が襲いかかり、さらには440m/sの強い衝撃波が半径3kmまで広がつたのでコンクリートの建物ですら半壊もしくは全壊というありさまなのをスクリーン越しで見ました。ぼくはこのようにことを見、聞き、戦争とはどんなにおそろしいものなのか、そして、日本は原子爆弾の被災地であることをふまえて戦争はしてはいけない、戦争を起してはいけないということ改ためて感じました。あと、今を生きる自分達は一生けん命に生きなければならぬということこの授業で学びました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

僕は原爆先生の話を聞き、思った事は、その時(義三)は内村
 現在(は)高校生あたりの年くらいです。その17才の義三が原爆
 を体験するのは、悲しい、皮肉といふか、言葉では表さ
れないような感情になります。しかし、自分の事(は)か、自分
がなるような事(は)か、冷静に動ける義三は、とても勇
敢で、強いな人だと思えます。9000歳の少年は、
 僕の考察だと、原子爆弾「リトルボーイ」の事だと思えます。
 この原子爆弾を作った人、落とす提案した人、そして、落と
した人、それに自分の教(は)があつたのかも未知、しかし、その代り甚
しい思いを、誰か、悲しい思いをした人、それで死んだ人などがあつた
 と思ひます。日本がこの方法で他(は)国に攻撃して、思つて
思つて思ひます。今日の話は、とても貴重で大切な話だと思ひます。
 この話を聞いて僕は、「9000歳の少年 新聞の九日間」をとても
詳しく読みました。其(は)他の本や資料にも触れ、その中、原爆を体験
 した人が何(は)思つたのか、何(は)見たのか、何(は)感じたのかを知り
2度と、こんな事が起つたのは、自分に出来た事(は)ないのかと、素
直に思ひます。



名前は裏面に記入してください

じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

表

12/4

私は今回、原爆先生のお話を聞いてとても嬉しかったです。理由は今の若い人達は被爆を自ら体験したことがなく、今忘れられようとしていたからです。私は3年生の夏に広島にある原爆資料館に行、たことがあります。資料館には心がざわつく痛くなるものがたくさんありました。でも、池田義三さんは自らの身で体験していたので「こんなもんじゃない」と言っていました。私は前半のエピソードを聞いて、生々しく思いました。後半で、出ていた「黒い影」は話を聞いているだけで心の底の深までくする何かがありました。私は話を聞いていていつも頭をぐるぐる回っているものがあります。それは「なぜ罪なき人達の命をうばうのだろうか」です。この言葉を言えば言うほど自分達は幸せすぎると思いました。7000℃という考えられないほどの熱さによって広島市に住んでいた人ほぼ全員が亡くなったことが悔しく、苦しく、残酷だと心の底から思いました。私は「こんな特別な授業ができて本当に幸せだな」と思いました。原爆先生が教えてくれたこと一つを大切に、家族の話にも入れていきたいと思ひます。本当に有難うございました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

今まで原爆については、教科書に書いてあるような事しか知らなかったけど、今回の特別授業を受講して、実際に原爆にあった人の話や詳しい解説を聞いて、まったく知らなかった事を知れたので、原子爆弾の恐しさを再確認する事ができました。当時、何があったのか、どんな状況だったのかを詳しく説明してくれた言古は少し怖い所もあったけど、それだけ、原爆が落とされた時がどれだけ深刻だったのかを、伝えてくれる言古でした。原子爆弾について詳しく教えてくれた角軍言は、原爆の仕組みや名前の由来など、他にも、あまり教科書や本に書かれていない事も分かりやすく説明してくれて、色々な事を知ることができました。

今回の特別授業を受講して、今まで知らなかった事を知れたので、原子爆弾の恐しさを再確認する事ができて、ためになりました。特別授業をありがとうございました。ありがとうございました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生じゅこうの特別授業を受講して

表

私は、今まで原爆の名前は聞いたことはありませんでしたが、細かいことは知りませんでした。今回の特別授業で、原爆の恐ろしさを知りました。私が一番頭に残っているのは、原爆によって負傷された人を助けようとしても、助けられないもどかしさ、人間なのに人間のかたちをしていない方たちの必死に助けを求めるところです。池田先生の話を聞きながら、頭の中でその情景を想像してみました。私は、想像ただけで心が痛みました。原爆の表面温度が7000℃で、太陽の表面温度より高いと聞いた時は、とてもおどろきました。そんな、太陽より熱いものが落ちてくるなんて、私には想像もできませんでした。でも、それほど原爆は恐ろしいの一言では表せないほどの恐ろしさだったのかな、と思います。今、原爆はないし、土地も荒れ果てていないけれど、昔の日本には戦争や原爆があり、それによってたくさんの人々が苦しんでいたことを忘れずにいきたいです。貴重なお話、本当にありがとうございました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

今、日本は平和で戦争などからほど遠い場所にあて、それが当たり前だと思
 っていて、昔に戦争があったということは知っていた。でも、知っていたのは戦争が
 あったという「事実」だけであって、どんなにひどかったのか、周りはどういう様子だったのかを
 知らなかった。でも原爆先生の話を聞いたことで、広島についての、ほんの一部で
 あったけれども、戦争のあとの様子、人々の様子、人々の気持ちなどを知ることができ
 てよかったです。戦争は、どちらか勝ったのか、いつ、どこで、何か起こったのか、ということに注目さ
 れがちで、それは、あくまで戦争という事実を体験していない後世の人々が定めたもので
 あり、実際に戦争を体験した人は、本などに書いてある言葉よりも、ずっと辛く、重い
 ことに立ち向かっていたのかもしれないと思、た。今回の特別授業の名前である「7000℃の少
 年」を聞いた時、最初は「原爆から生きのびた人の話」かと思、っていたけれども、実際は、広島に
 落とされた原爆「リトルボーイ」のことであった。この意味を知ったときに、リトルボーイも、何万という人を
 殺めてしまうのに、苦しさがあり、そのことを伝えるために「7000℃の少年」と名付けたのかな、と思、た。
 たぶん、広島での原爆も色々な不運が重なった末に起こったことだと思、う。例えば、天気か
 らか来たこと、平野であったこと、空のうらみにあおられたこと。言い出したらきりがないと思、う。
 たからと、思、って「あのときこうすればよかった...」といつまでも、過ぎたことと後悔し
 続けるよりも、軍の命令とはいえ、全力で、原爆の被害者、被爆者に向き合っていた、義三
 さんのように、前を向いて、生きていけるような人になりたい。



名前は裏面に記入してください

原爆先生じゅこうの特別授業を受講して

表

ぼくは原爆先生の特別授業をうけて思った事があります。第一目は原爆は人々を苦しめる物だと思いました。原爆によって体がもえて焼け死んだり、ひふがはがれ落ちたり、いたみもこられながら持ちこたえたりした人々がいます。なので原爆は人々を苦しめる物だとあらためて思いました。

二つ目は広島に原爆が落ちて被爆者数24万人で死者数が14万人です。

原爆を落とすと人々が苦しんだり死んだりする人がいます。原爆を落とすと戦争とかになって、国と国が戦うと人々は死んだり、苦しむ事になるので原爆を作ったり、落とすなどをしないでほしいです。

ぼくは、原爆によって苦しむ事がよく分かったので、あらためて原爆はこわい物だと分かりました。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

名前は裏面に記入してください

自分は原爆先生の話を聞いて僕は色々なことを思いました。その中から2つ書きます。1つ目は原爆先生の方が話していたうごをななめ前にしてここで自分たちの所に歩いてきてトラックの荷台に乗せようとしたが、肉がすべりこしまい、手の肉が「ちぎれ」てしまった事。これが僕の心に「番クツ」ときました。その後に向かた火災現場で家々をみんなで引っ張って火を消していったという事を始めに聞きました。

2つ目は戦争をしてはダメだという事。戦争をしたら人死ぬ、そしてまた人死ぬ、それも同じ仲間の人間を殺していく戦争。戦争をする事により悲しい、なぜなぜ戦争をしてしまうのだろうか、それは恐ろしく敵対心を持つからでしょう。その敵対心を持つ事で戦争が始まる、そして人が死んでしまう。だから自分はもう戦争という言葉を原爆先生の話を聞いてから聞きたくなくなりました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

12/15

私は原爆先生の特別授業を受講して改めて原爆のおそろしさに気付きました。原爆のことはなんとなくしてはいました。しかし授業を受け、初原爆を受けた人の痛さや苦しさを、戦争というものの恐怖も同時に感じさせてもらい、兵士の思いや受けた人の思いも、みずみずで伝わっていました。また、初原爆を受けた人の被害者つまり被爆者だけでなく、原爆のしくみ、どこを原爆を落す地点と移のか、なども教えてくれて、とても勉強になりました。そして何よりも印象深かったのは、原爆を受けた人たちが兵士に助けを求めたところですね。そこで、痛かったらうなとか、苦しかったらうなとか、色々な感情が頭の中で次々と湧き上がっていました。原爆先生の授業は、原爆のおそろしさをわかりやすく伝えられたので、お頭の中に入れてきやすく、しっかりと、原爆のことについて勉強できたと思います。おかげさまでどうございました。



原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

名前は裏面に記入してください

私は、こういう原爆のことをまったく知りませんでした。

だけど話を聞いて最初に思ったことは、「過去にこのようなことがあったんだ」と思いその後、痛がたんだろう苦しかったんだろうと思いました。広島の人約35万人のうち14万人以上亡くなったと聞いてすごくかわいそうだと思いました。その中にも、たぶん子供もいて、広島に「リトルボーイ」をおとされて自分の未来を「リトルボーイ」にうばわれたと思うと、すごく今、自分が生きてるということをすごいんだなと思いました。家に帰って

「原爆ドーム」のことを調べました。原爆ドームにかざられいる人形を見てまず「ッ」としました。あの人形は、またきれいな方と思うと、当時は、どれほどにひどいものだったのかと思います。

そして、広島におちてきた物が太陽よりもあついときいておどろきました。そして、私は、池田義三さんがとてもすごい人だなと思いました。どれだけつらい思いをしたのか、そして、もう亡くなった人をおぶってはおぶ、亡くなった人もかわいそうだと思うけど池田さんは17才でこの作業をすらすらとして私だったらもうたえきれず、にげていたでしょう。

そして、なみだがでるほど、さんかくで、苦しいものだったんだ

と思いました。四小で原爆のことを教えてくださり本当にありがとうございました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

私は、この特別授業を受けて想像以上につらい
と感じました。原爆のことは知、ていましたかこうし話
を聞くと、自分の思、ていた事よりはるか上をいく
つらさでした。一しんで人があとかたもなく
消える。そして、これはおそろしくてもうあ、てはならな
いと思、ていました。太陽より熱い、物が真上に
あると思、うとゾ、とします。被、今でも、原爆症に苦
しんでいる人がいることにもびっくりしました。まだ
苦しんでいる人がいるなんて思、てい、なからたからです。
5人に2人が死亡してしまうことを聞いた時には、わ、さ
を感じました。また、し、かの原爆でこんなに人が
死ぬことはおそろしすぎます。被、二度あ、てはならな
いより感じました。体験したわけじ、ないから本当のつ
らさはわかりません。でも少しはわ、か、たと思、ていま
した。もし今おちたらひとたまりもなく消されると思、て
だからこの世にはあ、てはならな、いと絶対にと。
そして、原爆先生の特別授業で聞、いたこと、
感じたことは一生あ、すれません。このおそろい事
のこわさを知、て学、べてよ、か、たです。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

原爆先生の言古を聞いて最初に思ったのは原子
爆弾はおそろしいなということでした。

なにがおそろしいかというところアメリカなどの人達で喜
ぶ戦争をしているからといって未知の爆弾
を人がたくさんいるところの方が結果がおそろしいから
といってそこはうつのはおそろしいと思いました。

なぜなら別にたぬもない平地をうたうたうた
爆弾のいなくを知りたいたけなら海にうつことだ
てきたはずなのに人がたくさんいる広島にうつのはおそろ
しいと思いました。

次に思ったことはあついても思う時間もなくしてしま
いと軽蔑(いすた)は運がいいと思いました。亡くなっ
てしまった人にはおそろしいけどあついても思うまじに亡くなったら
あついか苦しいかを考えないでいいからそでない
はずと苦しまないといけなないので僕はそう思いまし
た。

あとつけたして僕は前にテレビで原子爆弾が落下し
たところのそばにいた人の血は一瞬でふっそうしたとい
うことを聞いたのでこのように思いました



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

じゅごう

表

特別授業を受講して思ったのはなんで日本なんだろし、思いました。ところが分かれは原爆暴に対して感じ方が変わったかもしれませんが。もう一つは資料館で放たされた講演の凄まじいところ、です。画覧の悪い画像を通して、恐怖、痛み、生きたいという被爆者の命持ちや、子供を守りたいと命持ち、そして命がけ、体の大半が火傷をし、人間ではない様な姿形をしていても、生きたい、そこには原爆暴の恐ろしさと悲しみのかけを感じました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

ぼくは今回の話きいて、そんなにあぐない
物が日本に落ちたと思えるゾリゾリ
しました。おとされたのは広島だっけれど
もし自分たちがいる町などにおとされたら
もう何をしたらいいかわからないし、本当に
こわい物なんだなと思いました。
もっとびっくりしたのは、ぼくは7のときの温度
が、やはりいいと思いました。中心温度が100万℃
ときいたし、あかん、あかん、600m下の
地面には3000℃とか、本当にやき殺され
る温度だし、しょうが放射線とか、他に
も、もっとこわいものがあるから、もし原爆の
ようなものが今後落ちてきたら、さらにしんか
していると思うし、もうひにうできないと
思いました。実際ににはたの肉がはげるとか、
そういうものを使い、にみた人たちはおど
ろかしたいと思うし、今後は戦争などか
ななあってほしいです。



名前は裏面に記入してください

原爆先生^{じゅこう}の特別授業を受講して

表

私は、原爆先生の話聞いて、とくに心に残ったことが一つあります。それは、広島県にある資料館のことで、原爆先生の話聞いている時に、画面に映ったえいぞうがすごく印象に残りました。見た画像は、私には、とても心に残るほど「こわかった」です。でも、それをじっさいに体験している人は、「きれい」と言ってしまうほどのことだ聞いて、とても心にひびきました。

この時におきたことを話しているだけで、泣けてくるというのは、私たちが想像できないようなおそろしいできごとがあり、地獄のような体験だったと思います。

今の時代もいつ、どこで、なにが、おきるかわからないので、この原爆先生に聞いたことを、あたまのかたすみに入れて、日々生活していきたいと思います。ありがとうございました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

今までも原爆については知っていたし、どんなものかというのもし知っていたが、話を聞いたら、話し方も伝わりやすすぎて、思った以上に怖かった。怖いという気持ちもあったけれど、悲しい気持ちも、助けたくても助けあげることのできなから、被爆者のことを考えると、言葉では言い表せない気持ちになった。話を聞いていると、今私が"そこに"いるような気持ちで想像できてしまい、怖くて調子が悪くなった。それくらい怖い物だと知ったから、その気持ちをこれから忘れないようにしたい。そんな怖い中で、義三達よしさんたちの少しで"も人を助けあげたい"という気持ちは本当にすごいと思った。死んだ人をおんぶして運ぶのも、かなり勇気がいると思った。私ならできなからもしれないと思った。原爆の投下都市の条件が、候補になた都市、目標地点があたのには本当にゆるせないと思ったけれど、日本もそれなりに相手国にやっていたわけだから、もう二度と戦争しないでほしいと思、たし、原爆を持っている国は今すぐ捨ててほしいと思ったけれど、簡単にはできなから...。私は義三が原爆を料館へ行ったときの、「きれいすぎる」という言葉が一番心に残った。なぜなら、「美しい」という意味ではなく、「本物には似ても似つかない、も、とびとびでおそろしい物だった」という意味として言、た一言だったと受け取ったから。怖かったけれど、知れて本当に良かったと思う。



じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

とても、悲しい出来事について、よく聞くのは始めてでしたが、恐ろしい物とは思っていませんでしたので、良い機会だったと思います。特に、原爆も落とす場所が京都が強くおさねたのはおやりました。でも、世界遺産のたしとある京都は破かいされて、良かたと思います。でもなぜ、日本に原子爆弾を落とすのか、なぜ実験のようなあつかいをしたのか、今の疑問です。また、原子爆弾のい力は想像を超えるものでふるえ上がってしまいました。そして、言は、想像できるような言でしたが、とても、恐ろしいのまねてしまいました。原爆雲はよし、テレビしかで、似ている物は見たことありませんが、なぜできるのか、知らなから、たいてい知者がたてたです。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

12/5

わたしは原爆先生の話をきいて、おどろいたところの1つ目は、原爆のしゃんかんを声でや、ていてびっくりしました。

2つ目は、ひふがどろどろになり、体の中の水分が蒸発したりしたことによりびっくりしました。(驚こわかったけど)

まず人が黒クゲになることをきいて、そんなこと本当にあつたんだと思ひ、それだけあつたんだなとおもいました。

体内の水分も蒸発するのにもびっくりしました。蒸発するのにも、しゃんかんが熱いからそれだけ強かつたと分かりました。そして、一番こわかつたのは人がとけたことです。

太陽の温度は6000度で、原爆はもっと温度が高く、て表面は7000度です。この温度で人がとけ、ひふがぼろぼろになるのは当たり前(たぶん思ひ)で、このあつさによつて空気がにげていき、真空状態になつたことをきいて、ゆうびん局の地下に生かした人はすこりな(くめちやくちがラッキ(笑))と思ひました。そして耳に親指を当てて、4本の(両手の)指で目をかくす(笑)うかはすたくあると知つて、この人も生きて上かつたなと思ひました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生じゅこうの特別授業を受講して

表

特別授業を受講して、色々な事を学んだ。受講する前は、「原爆は怖いもの」としか認識していなくて、これほどまでに被害があって、人に悲しい、いたい、苦しいという言葉ではあらわせないくらいの気持ちにさせる事ができるものなんだと思った。私は、先生の話の中の言葉で、先生のお父さんが言った「きれいすぎる。」という言葉が、すごく印象に残っていて、原爆が投下され、たくさん被害があった。いつ、自分の身におこるか分からないから、他人事のように思っはいけない。と思うかもしれないけれど、今回のお話を聞いて、自分の事、自分の身におこるかもしれない事として考えるのは、難しいと思う。「きれいすぎる。」という言葉から、本当の苦しみや本当の悲しい、本当の地ごとくを知っている人は、数少ないという事を知った。何もなくてただ自分が幸せと思って生きていたり、ふつうに生きている人は、私もよくめ、きくと本当の苦しみや悲しいという気持ち、本当の地ごとくを知らずに生きている人だと思った。宿題がたくさんあって「うらひ、算数も体育もあるじゃん。「地ごとくだよ～」とか、「本当」を知っている人たちからしたら、生きて勉強できる、生きていられる、命がある事が一番の幸せなのに、自分の軽い気持ち→



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

原爆先生の話を聞いてます「思、たのオ、
わい、かなしい」です。

原爆先生の最初のトラックに因って広島市に
行く途中、まるこげの人が助けてといいながら
手を上げてそれをつかんであげてる巻けて
たおれていったの、いたの、いたのなどと言うところから
くにごろかなしかたです。

それにくろく水のはいったコンクリートの中でゆでた
のようになっていた人も言者さいただけアゾツとし、
みだいがでそうになりました。

そして原爆のあつてもひい、くしりました。

表面温度が太陽が6000℃なのに原爆はだん
は7000℃で中心の温度が100万とててもひい
くしりました。この中心100万と表面7000℃の太陽の
ような球が600m上の豆粒上にあつたと考
えただけでおそろしかったです。

この話を聞いて原爆のおそろしさなどをいろいろ
なるなことを笑われて勉強になりました。

90分しか時間になが、たのでいとはいたと



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

私は、この原爆先生の話を聞いて、原爆の恐ろしさを思い知った。原爆の衝撃波によって、屋外にいた人は一しゅんで消え、その人をかたどった黒いかげが残ってしまったと聞いた時には、人間がたった一しゅんで消えてしまうなんてとおどろいた。そして、それほどまでに原爆のいかがとてつもないものだということを感じた。特に、12番の流川や14番の元安川など、川にたくさんの遺体が発見されたというのを聞くと、きっと、その人達は、2000℃という原爆のあつさで川や用水に入ったのだけれど、すぐに水が蒸発してしまい、そのようになってしまったんだなと理解した。原爆の出す大量の放射線で、大勢の人が命を失い、生き残った人の中でも今も後遺症に悩まされ続けている。私は、大きいと地球までが破壊されてしまう恐ろしいものほつくりたくないし、つくってはならないのだと感じた。原爆の被害を実際に見た池田義三さんの訴えを、私達は真に分かることはできないが、それでもそのようなことをおこしてはいけないと思う。



名前は裏面に記入してください

原爆先生じゅこうの特別授業を受講して

表

原爆先生の話を知り、原爆のつらさがいより深く伝わった。私は、原爆を経験したことはいないからあまりわからな
いけど、池田先生の話からは、とてもきょうふといゆ
感情がい伝わってきた。話を聞いた"けれど
とてもこわかったのに、実際に体験するとすると
自分がい感じたきょうふの100倍以上のきょうふなのだと
思った。原爆のつらさは、体験した人しかわから
ないかもしれない、少しでも多くの人に原爆の
つらさをきょうふを伝えること、今後、二度と同
いことはいおきないように、私自身も、原爆に
ついて、誰かに伝えようと思った。話を聞いて
たまたまこわいと思うた"けれど、それをより多く
の人に伝えていくことはい大事なのだとあため
めて、いいることはいできた。



名前は裏面に記入してください

原爆先生じゅこうの特別授業を受講して

表

12/5

昨日原爆先生お話を聴いて一番怖かったのが

「シューシューシュー、シューシュー」といって、「カッ」と大声で言っただけ。その時代に生きていたわけでもない、実際に見たわけでもないのに元の原爆の怖さが伝わりました。なぜこんな恐い物を造ったのか、これを投下してなんの意味があるのか、分かりません。

そして一番驚いたのが、原爆の怖さ、熱さ、衝撃波、放射です。まず大きいです。直径200メートル……な人でこんなのを造るの？ 思いました。そんな物が昔に造れたなと思いました。次に熱さです。中心の温度が100万度……表面温度が7000度……え、と思いましたが、信じられませんでした。その後の太陽は6000度……は……って感じました。そして太陽が「地球」に来たような物……な人で太陽より熱いのを作れるの？ 造るの？ その思いが込み上げました。相手は同じ人間なのによく造れたなと感じました。

さらに衝撃波です。速さが「毎秒440メートル」で音速より速いと聴いた時、頭が混ざりました。光のスピードが音に勝るのは分かりますが、衝撃波は。何度も言いますが



原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

原爆という名前ばきいたことがあったけれど、実際に話をきいたのははじめてだから、知らないことしかなかった。実際に自分がその場にいたらと思うだけでこわくなったけれど、本当にいた人はこわいよりも悲しかったと思う。最初「7000℃の少年」と聞いたときには、よくわからなかったけれど、最後には「表面温度7000℃のリトルボーイ」だということが分かって、想像もできない温度だったと思う。原爆のときに「しょうげきは」と「ほうしゃせん」は知っていたけれど、高温や2回のしょうげきは「ほうしゃせん」によるけんぱくしょうは知らなかった。話をきいただけでこわかったから、もう二度と、そんな兵器をつかてはけないと思うし、今あるものは使わないようにして、これからは絶対に、使ったり作ったりしてはいけない。原爆資料館に行きことはないけれど、きれいなすきるは、とても心に残った。「7000℃の少年」しっただけで、2つの場所をこわしてしまって、今も苦しむ人がいるとなると、落としたアメリカの責任なのが残ってて、にひいことを



じゅごう
原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

ぼくは、原爆がどうゆうものかがあきらまなかったけれど、話しを聞いて、すごいことだと思いました。ぼくは、さしこの話を聞いて、世物とちがって、父さんがなまぬかが言っているぼくは、おそく、いたが死んだと、思いました。おまねめと、その弟が、おねあひが、けがをして、いらい、声をかけ、けがを、あて、虫が、いるので、あが、ま、いて、きたと、思いました。ぼくは、なまぬと、思、ま、せん、そうと、が、歴史、を、と、ま、い、じ、に、した、な、と、思、い、ま、し、た。ぼくは、せん、えう、の、日、に、い、た、人、た、ち、の、心、が、ま、ろ、か、ら、ま、い、り、し、自、分、は、生、き、て、い、る、人、だ、と、う、と、が、思、わ、れ、い、て、ぼく、の、理、由、は、せん、えう、の、日、に、死、ん、だ、よ、う、に、こ、ろ、で、し、ん、じ、が、た、人、た、ち、が、い、る、の、で、その、人、の、分、まで、強、く、い、ま、た、い、た、と、思、い、ま、し、た。こ、れ、が、い、は、自、分、を、大、切、に、し、て、い、た、と、思、い、ま、し、た。



じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

私は原爆はあぶないやこわいものというのを知ったことがあり、
自分でもやはり原爆と言われたらこわいものというのを感じて
いました。しかしその受講してみると、私が思ってい
るよりもこわいものでありあぶないものだと分
か、た。そして、広島などに原爆をおとせばか
ら、多くの人が死んでしま、いやけどをおうてしまう人
などかたしさんいたときいて、少し悲んた。
そして、やけどをおうのは、ふつうに生活している
私たちが少しやけどしてしまうのは大ぢかいて、
体全体にやけどをおい、そのやけどのせいで、皮
ふかたぬさからたり、体全体や、顔をまかにしていた
のであ。そして、原爆をおとせば地上から3百メートル
ほどの上には、17000℃で、直径200mの球体かでき
るときいた。そして、それは、太陽の表面温度の2倍
以上あり、それが空気にたたよていたら人間
は、体の中にある水分がすくた蒸発さぬおに、
おみの固まりたなってしまうと聞きあどるさしと
に悲んた。このことのおかげで、原爆のこと
についてくわしくするとかいてき、また、そのときの

これを母や父、弟などにも話し、人ほしかあどるさしとに、



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

僕は池田さんの話を聞いて原爆のおそろしさがよく分かりました。

その話しの中で一番印象的だったのが原爆によって皮膚が剥がれて人が人では無いという事でした。

また原爆のしらせは凄まじい風が吹いてしらせはでつぷされた後に必然と考えると原爆の悲惨さが分かりました。

この話しを聞いてインパクトが強かったのが人のかけのしみができるところです。一人一人の人が消えてかけのしみができるところはもうもうとつかないほどの強い光が当たったかと思えます。

原爆の話しを聞いてとてもおそろしくなりました。ためになんか思えます。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

私は、原爆先生の話しを聞いて、思ったことは二つあります。
一つ目は、原爆というのはほんとにこわいものなんだと
実感しました。なぜかというと、人の息がどんどん
落ちてしまったり、人間が人間みたいではなくな、てしま、て
いたりしたりしたと聞いたからからです。また、助けたくても
助けてあげられずに苦しい想いをしたと、池田先生
のお父さんはそう想った と思います。

二つ目は、原爆先生の原爆がおちてきた時の音の大きさに
おどろきました。なぜかという「ドン」と鳴る音の間に
きがすごくあり、どうな、ちやうのどとどきどきしていました。
そのくらい原爆先生のはく力がものすごく大きかったと想
います。また、私たちは原爆先生の声を聞いただけでもおど
ろいてしまったので、実際に体験をした池田先生のお父さん
は、もっとこわかったと想います。

三つ、原爆先生の話を聞くことができたので、この話を忘れない
ように「原爆というのはこわいもの」と教えていきたいと思
います。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

この原爆先生の授業で聞いたことに対して、色々なことを知りました。

名前とどこで起きたのかの2つしか分からなかったけど、被爆者のことはくたんのいかに、ねらいなどのことが戻された。

爆発した直後の人の心きょうだったり、じょうきょうなどはおそろしいと感じた。

ひか、かどけるほどのもので太陽よりも

あついおなものが日本におちていたと考えるとこわいものだと思う。

人がいらいんできえたり、ひかどけるなどの被爆者24万人で死者14万人で火暴心地は真空状態に。

もっと知るために、一度、広島平和記念資料館に行ってみよう。



原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

原子爆弾のあつはさを改めて知ることができ、
今、あつはさに生きていると思うと、昔は大変だったんだな...と思いました。7000人の少年の意味も、よくわかりました。画像を見せてくれたり、実際に、そのポーズをとったりしてくれたので、すごく分かりやすかったです。

すごく分かりやすく、情報も多くて、たくさんのがわかりました。

ワークシートも、分かりやすくまとめてあって、すごく見やすく、わかりやすかったです。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

私は今回、原爆について教えてもらって、そ、ちよくに思ったことは「こわい」と思った。私は映像や話、写真で学んだだけでもこわかった。想像するだけでこわかった。でも、実さいその場にいた人たちは「どんなに苦しか、ただろう」「どんなにこわか、ただろう」「どんなに痛か、ただろう」そう思った。話の中でも、こわいと思うのに、実さいは言葉に表わせないほどの「きょうふ」だ、ただろう。でも今回、原爆について学んで「こわい」の他にも思ったことがある。「原爆について学べて良かった」と思った。私は、そこまできわしく原爆のことや、原爆の場にいた人の「思い」など知らなかった。だから、少しでもその場にいた人の気持ちを考えることができたので良かったと思う。また、今回は、実さい、その場にいた人の映像や実話を聞いたというのは、すごく「きょうふな時間」だ、たなと思います。そして、私が原爆について教えてもらったとき、ビックリしたことがある。原子爆弾の特ちょうだ。その熱さは太陽の6000℃よりもたかい7000℃と聞いてビックリした。太陽より熱いものが地球にあるとは思わなかったからだ。そして、原爆によ、て被爆者数24万人、死者数14万人という多くの人が苦しみにおわれたのだ。今も、原爆によ、て苦しんでいる人がたくさんいることを忘れない。忘れたくない。そして、原爆がおちた時 ⇒



原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

昔戦争で多くの犠牲者などが
出たことなどを知りました。
た。

まず原子爆弾です。直径5km
を超える町、平野など「衝撃が
なかった。そこで京都を一回えん
たが寺などのしゃぶら文化がい
があれためこおされなから
そこであつたのがリトルボーイ
そのリトルボーイは高さ600mのどろ
で中心が100万℃まわり7000℃地上3000
になつていて人は消えてしま
いました。あつて気あつがあつてし
まいはいけて、真空なりの存在
また空気が入り、上空に大きな
雲がうかきました。

昔の歴史を孝女に教えていただき
ありがとうございました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

私が一番思い出になったのは3つあります。1つ目は、空中音の表現力です。「ヒーンってかじの音「ドカーン」という音、それを「真実」で表し、音量にも気づけていたので、本当はこんな感じの音なんだ、~。と思いました。私自身はドカーンという音がいつくるかも分からず、「いつ死んでしまうのか」が分からないうのが、あらためて「ヒーン」だという事が分かりました。

2つ目は、「助けて、兵隊さん」という場面です。今は医者へ頼る世界だけと、昔(原爆)した時は兵隊さんだ、たんだな~と思いました。私も今医者になっているから「助けて」といった人の気持ちもかとも共感しました。

3つ目は、「おけい」です。資料館にあるという、おたけいという写真でさえ「お、ん」としてもおどろいたのに、「きれいなおむす」といった父の言葉で「え？」となりました。おのむけいでさえ、おんたよにかわいそうなのに、実物はあれよりも、もっとかわいさうと思っただけです。そう思うと、お話の中での私は、おんたよ、悲しみ苦勞した人だ、なと分かりました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

改めて原子爆弾という物は、ざんくでたくさんの
幸せをうばうものだということを改めて実感

しました。また原子爆弾は条件があり天候に
左右されやすいということも知りました。

その他にも7000℃の少年の意味を理解する
ことができた。原子爆弾は破壊力だけ
でなく、衝撃波や熱線などがあり、きのこ雲が
発生してしまうということが分かりました。

また、600mなどという高さなどがどれくらい分か
らないときは、例えをたして分かりやすく
説明してくれたので、とても分かりやす
かったです。

僕はこのようなとても残虐な原子爆弾
を開発せずに平和にすごしていけたらいいな
と思います。なせなら、未来の人たちにも
この恐しさを教えていかなければ

今まで生きていたものが水の泡へと
なってしまうから、未来の人に伝えられる
ようにがんばってみたいです。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

とても苦しく、悲しい話だったと思います。「当事者じゃないんだからそんな事
分からない」でもお話を聞いて当事者程ではありませんが、心にダメージを
負いました。池田義三さんの方が辛くビデオでも泣きながら話してくれ
ましたが私の心にも少しでも辛さが伝ってきます。

一番心に残った所、不覚にも「怖い」と思ってしまった所は池田義三
さんが助けを求める人のうでを引張った時に皮膚がズルッと
はがれ落ちてしまった所です。原子爆弾で身体中に火傷を負い
皮膚がもろくなるとはがれ落ちるのはさうとう痛いと思いました。
もう一つかけがを負った17~18?才頃の女性を助けた所です。

話を聞いていただけで負傷具合が激しく痛々しい感覚でした。
池田義三さん(兵隊さん)達が来ていなかったふくらはぎから全身に
腐しよくが起こり助からなかったんじゃないかと思います。

だから、池田義三さんはまさに英雄だと思いました。
自分も身近な事で人を支え助けられる人になりたいと
思いました。

本当にありがとうございました。